

5-4

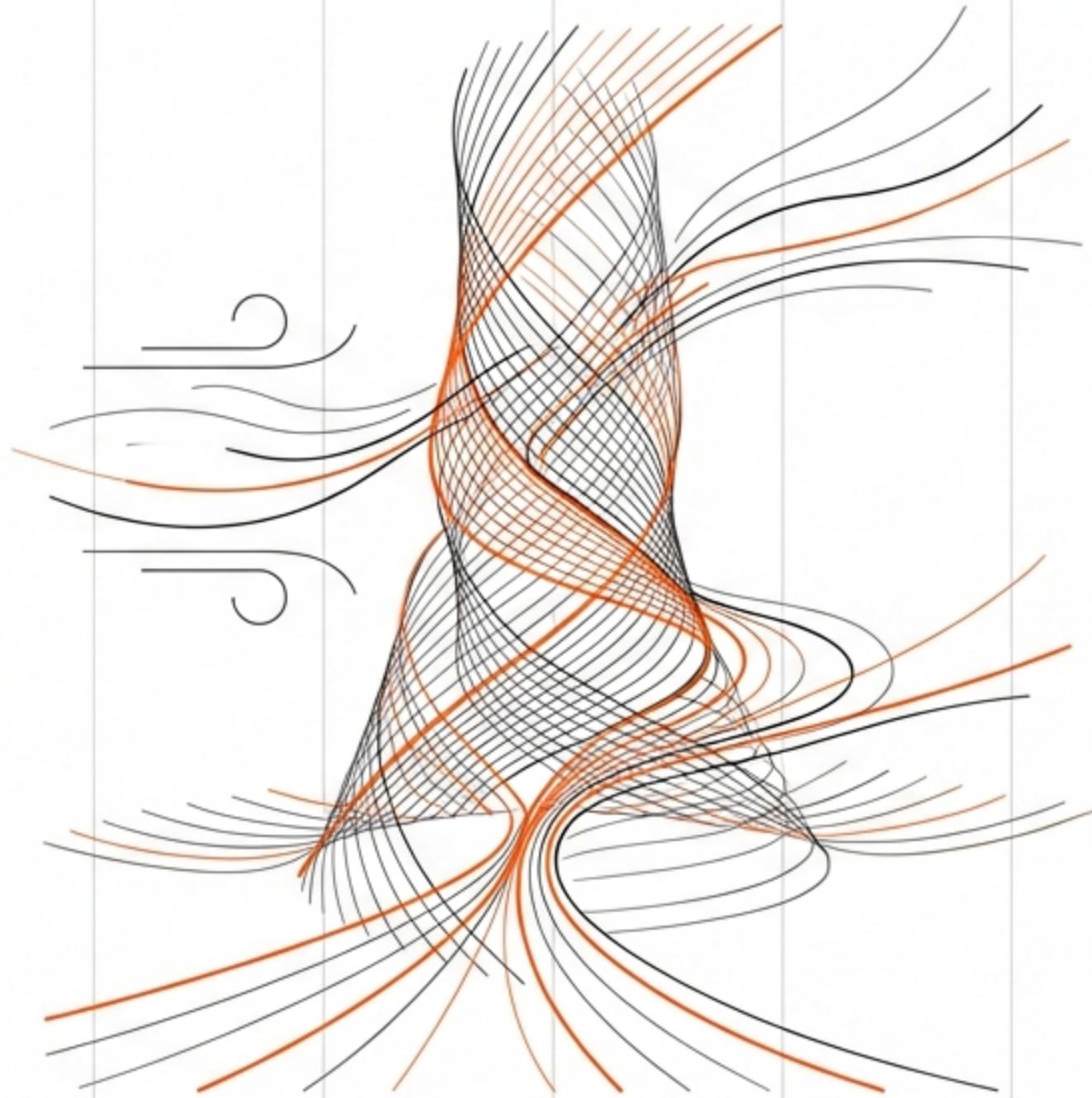
情報としての建築

情報社会における建築の定義



情報によって建築が変化しています。現代において、建築を「物質」としてだけでなく「情報の流れ」として捉え直すことは、デザインの新たな可能性を開く鍵となります。

哲学：流動としての建築



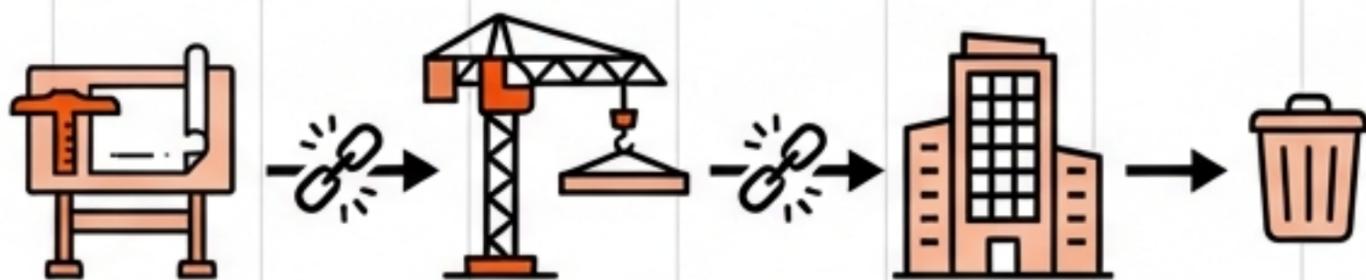
“建築とは、（情報の）流動であり、都市とは流動の建築である。（中略）都市と建築を人間と機械の二律背反と考えないで、『流れ』の概念を媒介として、二律背反そのものの存在を認めるのである。

建築とは、（情報の）流動のかたちである。人間・エネルギー・応力・季節・光・コミュニケーションの時間と共に、移り変わる流動をかたちにするのである

▼その状況において

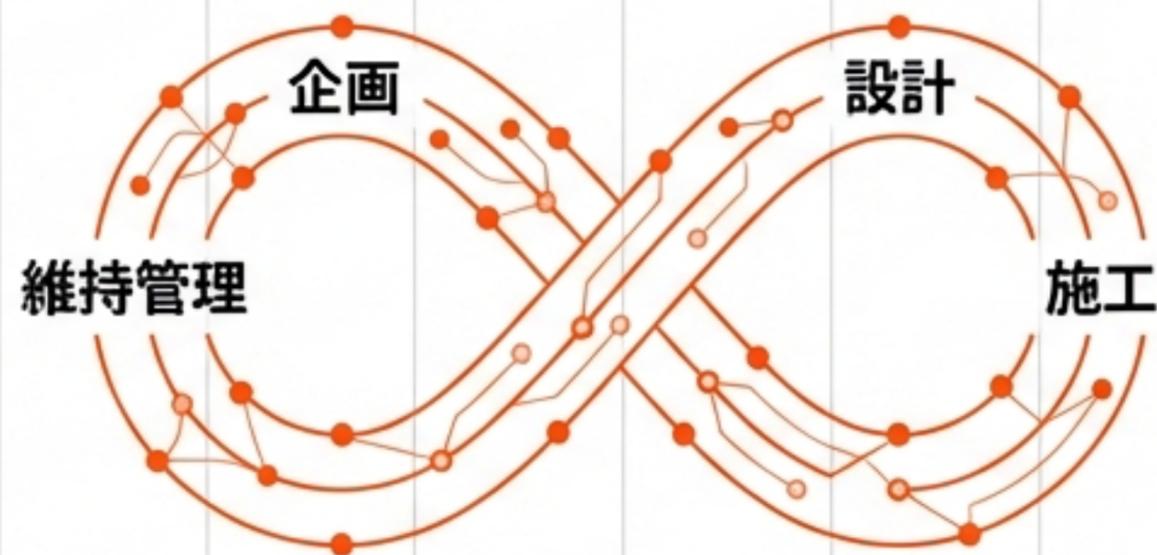
物質としての限界、情報としての拡張

物質的視点 (Hardware)



建築を実体（ハードウェア）としてだけ捉える視点は、技術・生産・デザインの可能性を狭めてしまいます。現代の建築プロセスは、もはや物理的な作業だけでは完結しません。

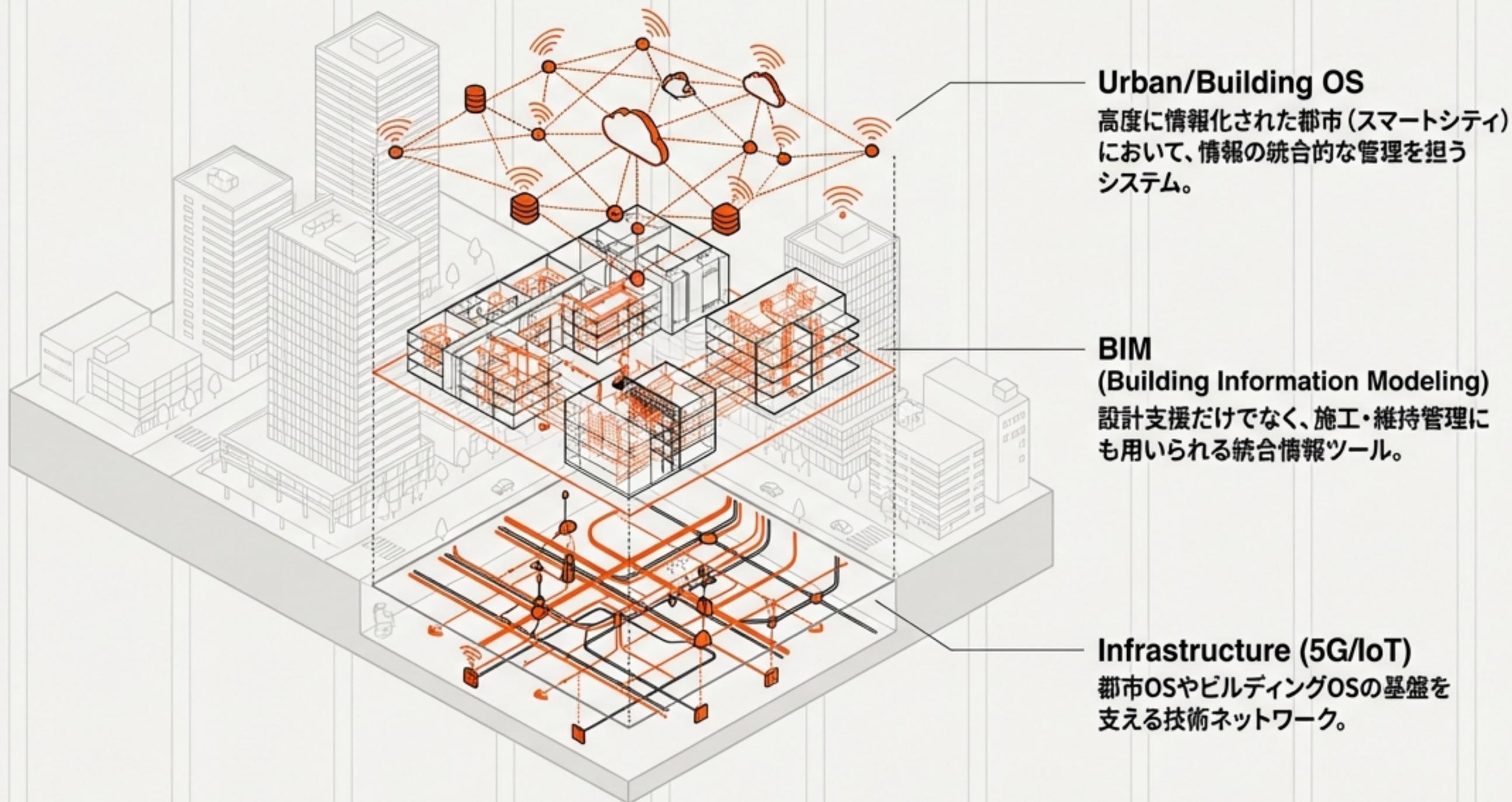
情報的視点 (Software)



現代の建築では、BIMなどを活用し、企画・設計・施工・維持管理のすべてがデジタル情報としてつながっています。この情報技術への理解がないと、現代建築の本質的な設計・生産プロセスや、その社会的役割を捉え損ねてしまいます。

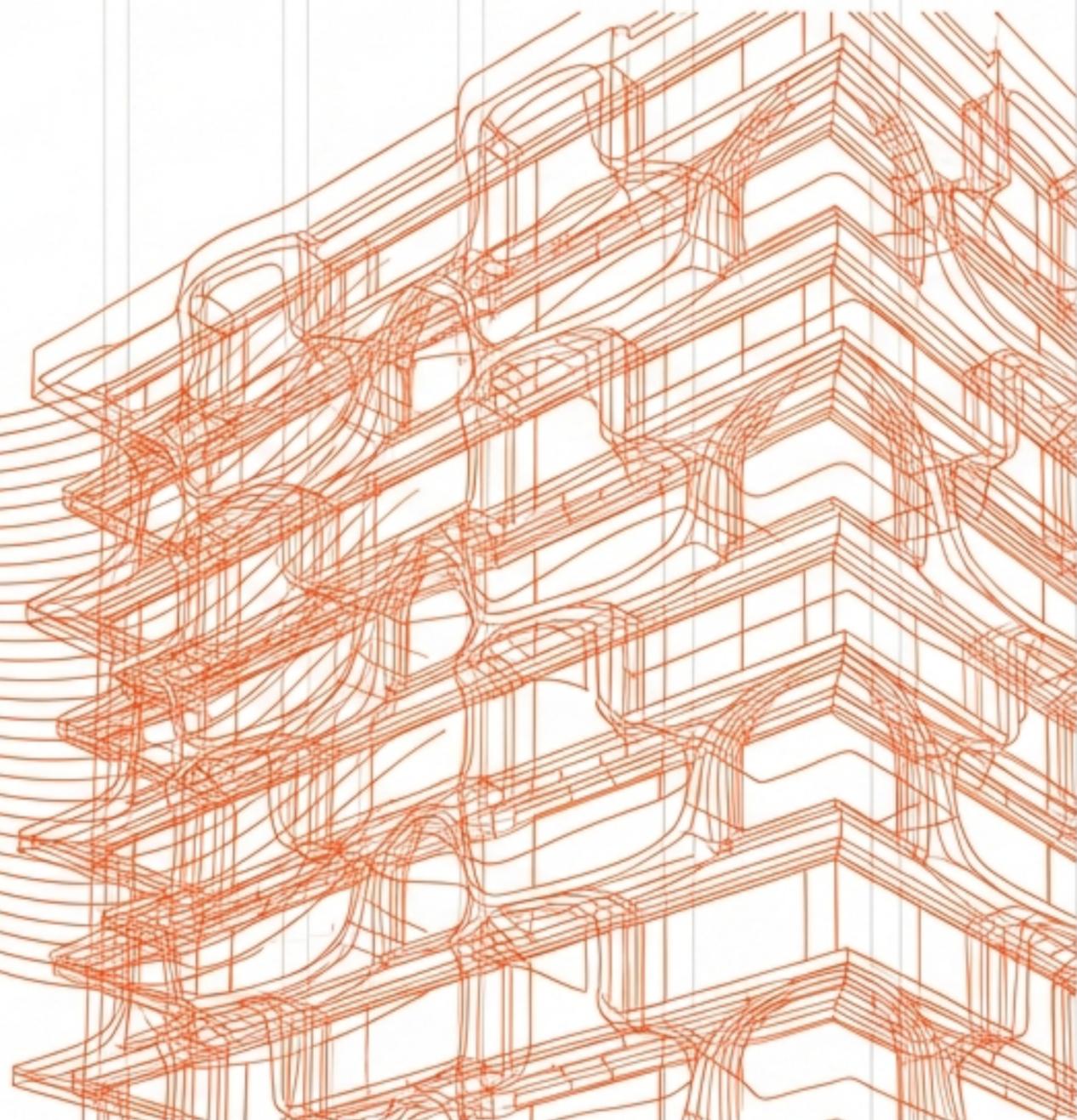
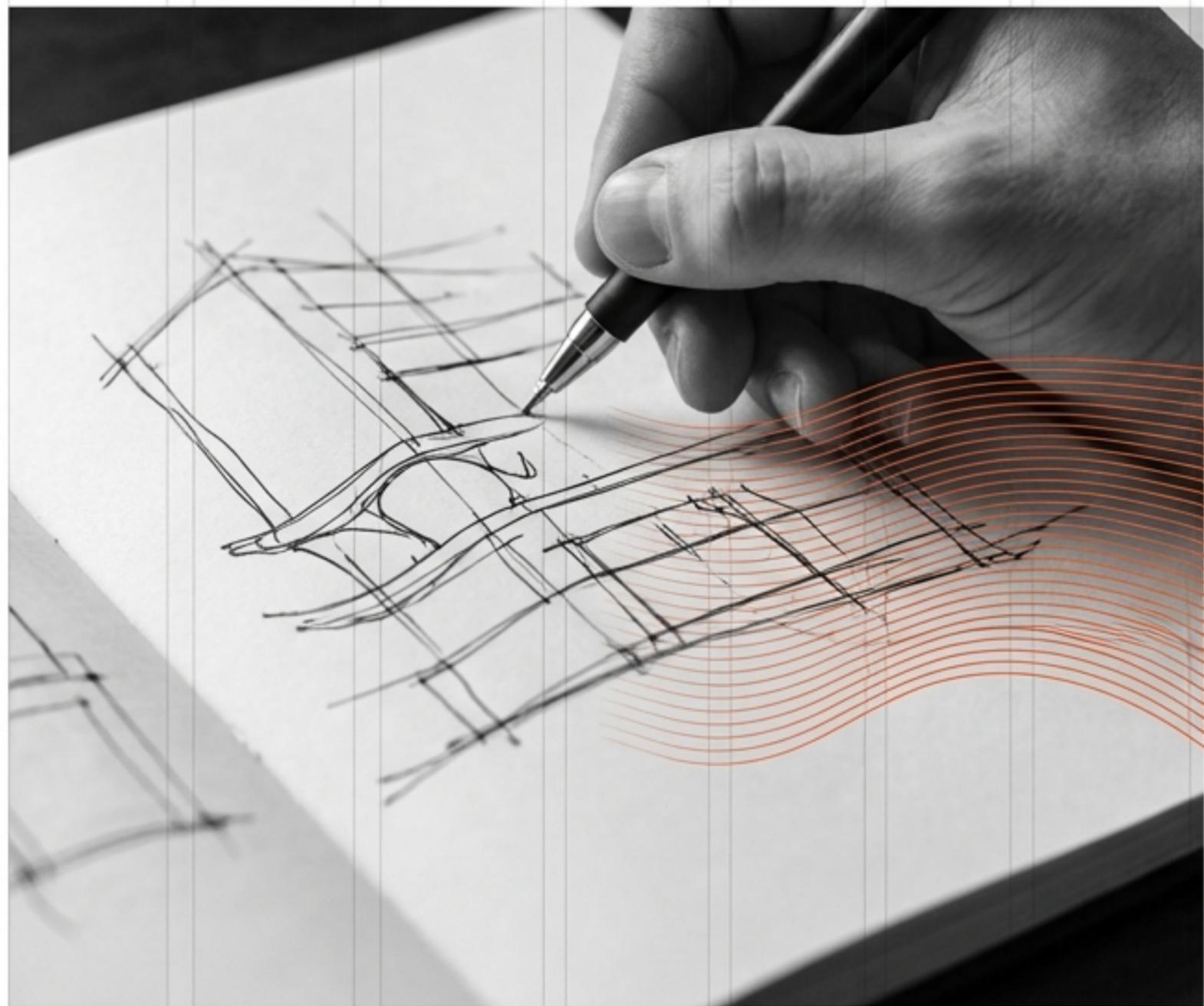
▼そこで 建築を生み出すプロセスを、情報の観点から捉え直す

BIMやスマートシティなど、具体的な「情報としての建築」を学ぶ必要があります。



創造のパートナーとしてのAI

生成AIもまた、情報としての建築における「創造のパートナー」になりうる存在です。単なる自動化ツールではなく、設計者の思考を拡張し、建築の創造性を高めるための対話的な存在として機能します。



▼その結果

情報社会にふさわしい、多様な価値の構築

建築が情報によって支えられている事実を理解することで、BIMなどの技術を単なるツールとしてではなく、設計の本質ととして使いこなせるようになります。

設計から施工、運用に至るあらゆる場面で、情報を活用する建築のあり方を実感できるようになります。

これにより、情報社会の時代に即した、新しい建築を構想する力が養われます。



関連するパターン

